平成２３年度事業報告書

Ⅰ　事業の実施概要 …… 1

（１）助成事業 …… 1
（２）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～ …… 2
（３）国際交流活動 …… 4
（４）制作者フォーラムの開催等 …… 4
（５）定期刊行物の刊行等 …… 5
（６）ホームページの運営 …… 5
（７）個人情報保護 …… 6
（８）資産運用検討委員会 …… 6

Ⅱ　処務の概要 …… 6
（１）役員、評議員等に関する事項 …… 6
（２）理事会および評議員会に関する事項 …… 9

公益財団法人　放送文化基金

平成２３年度事業報告書

Ⅰ　事業の実施概要

平成２３年７月、放送の地上波は東日本大震災に見舞われた東北３県を除きアナログ放送からデジタル放送に完全移行した。

これにより放送と通信が連携した新たな放送サービスの実現に向けて、ハード、ソフト其々における研究開発が一層進展することとなった。

この様な中、放送文化基金は４月１日、公益財団法人に移行した。

助成事業、表彰事業、制作者支援活動事業の３事業を柱に新法人としてスタートしたが、５月には大震災関連の調査研究を委託するなど、放送文化の発展向上に向けた諸活動を重点的・効率的に実施した。

財政面では、東日本大震災や欧州債務問題などの影響を大きく受け、国内経済は低迷が続き、超低金利政策と急激な円高よって資産運用収入は予算額を大幅に下回った。

このため、事業運営にあたっては、全国制作者フォーラムの中止に加え、事業の効率的実施や人件費の抑制並びに管理間接部門の節減等に努めた他、基金賞懇親パーティーについては、東日本大震災発生から 3 か月ということもあり中止した。

この結果、収支は最終的に黒字とすることが出来た。

（１）助成事業

ア　平成２３年度助成

平成２３年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の２分野を対象に公募を行い、助成審査委員会での審査を経て、理事会で５１件　５，５００万円の助成を決定した。

申請および選定結果は、次の通りである。　　（単位　万円）

区　分	応　募		決　定	
	件　数	金　額	件　数	金　額
技術開発	38	9,181	15	2,200
人文社会・文化	82	14,437	36	3,300
合　計	120	23,618	51	5,500

「技術開発」では、デジタル化、テレビ画面の高精細や３Ｄ時代に伴う伝送・受信方式の開発、インターネットと放送に関連した研究が多く採択された。デバイス・材料開発の基礎的分野はこれまでと同様に申請そのものが少ないなか、２件採択された。また将来の放送の姿に深くかかわるネット映像やツィッターなどソーシャルメディアを対象とした研究・開発が、チャレンジングな試みとして採択された。

「人文社会・文化」では、昨年の東日本大震災に関連した申請が１５件と全体の約２割あり、この中から災害情報の提供や報道のあり方に関する調査研究が７件、被災地で行われる事業２件が採択された。

また、アジアの放送文化の向上につながるプロジェクトとして、テレビドラマの国際交流やバングラデシュの女性のラジオ研修プロジェクトなど７件が採択された。

助成金贈呈式は、研究報告、目録贈呈、懇親会の３部構成で、平成２４年3月５日に実施した。

研究報告については、昨年３月１１日に発生した東日本大震災を受けて昨年5月に当基金が緊急に助成した災害放送に関する２件の<委託研究>についての成果報告を行った。『検証“東日本大震災”命を救う情報をどう伝えたか ～地震発生から 1 時間～』について、日本災害情報学会　デジタル放送研究会代表　藤吉洋一郎氏（大妻女子大学教授）が、『メディアは東日本大震災をどう伝えたか～臨時災害放送局の調査から～』について、「東日本大震災とメディア」研究会　代表　丹羽美之氏（東京大学大学院准教授）が其々成果報告を行った。

参加者は、放送関係者、研究者、行政関係者などおよそ１２０名で、報告後の質疑応答の時間には活発な意見交換が行われた。

イ　平成２１年度助成事業の実施報告

平成２１年度助成の対象とした事業からの実施結果報告について、「技術開発」、「人文社会・文化」の審査委員会で審査を行い、其々コメントと評価点を付けた。

平成２１年度に助成した事業は４９件（うち海外４件）で、技術開発１６件、人文社会・文化３３件であった。

（2）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア　第３７回放送文化基金賞

第３７回放送文化基金賞は、平成２２年度中に放送された、優れた放送番組

（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、合わせて２９件を表彰した。

応募・推薦、表彰の状況は次のとおりである。

部　　門	領　　域	応募・推薦数	表彰数	備　　　考
番 組 部 門	ﾃﾚﾋﾞﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰ	73	5	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 3
	テレビドラマ	45	4	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 2
	ﾃﾚﾋﾞｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ	65	3	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 1
	ラジオ	36	3	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 1
	個別分野	—	5	番組部門受賞作品から選定
個人・ｸﾞﾙｰﾌﾟ部門	放送文化	18	4＋1(特別賞)	—
	放送技術	8	4	—
合　　計		425	29	

番組部門の本賞の賞金は 100 万円、優秀賞は 50 万円、各番組賞は、30 万円、個別分野賞は 20 万円。個人・グループ部門の賞金は 30 万円。

本賞を受賞したのは、日本が原爆被害の実態を調べた報告書がアメリカに渡され、原爆の殺傷能力の調査に利用されてきた事実を発掘、追及した『ＮＨＫスペシャル　封印された原爆報告書』（ＮＨＫ広島放送局）、テレビドラマ番組では、『ドラマスペシャル 遺恨あり 明治十三年最後の仇討』（テレビ朝日）、テレビエンターテインメント番組では、『クニマスは生きていた！“奇跡の魚”はいかにして「発見」されたのか？』（毎日放送）ラジオ番組では、『高橋竹山生誕１００年記念番組　ラジオドキュメンタリー　故郷の空に』（青森放送）である。個人・グループ部門・放送文化では、音響効果の小野さおりさん他が受賞、俳優の児玉 清さん（故）には特別賞が贈られた。

贈呈式は、6 月 24 日に千代田放送会館で行った。懇親パーティーは、東日本大震災以後の諸情勢に配慮し中止した。

イ　他の賞への参加

アジア太平洋放送連合（ＡＢＵ）番組コンクールと第３８回日本賞教育コンテンツ国際コンクール（主催／ＮＨＫ）に参加した。

ＡＢＵ番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の最優秀作品『ＦＭシアター「鳥を放つ日」』（日本放送協会／日本）、『ドラマスペシャル「心の

糸」』（日本放送協会／日本）にそれぞれ賞を贈呈した。

日本賞では、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『Our TV is a carton！テレビはダンボール箱』（マラウイ教育研究所／マラウイ）に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第３７回（平成２２年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したアフリカ・ジャパン・ハウス・センター(AJH)の『Breasts torturing 乳房の告発』（カメルーン）は番組として完成し、今回の日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

（３）国際交流活動

○ＡＢＵ(アジア太平洋放送連合)総会および番組委員会

ＡＢＵの第４８回インド総会が、１１月２日から８日までニューデリーで開かれ、加盟５８か国、２１３メンバーから４００人余りが参加した。今回のテーマは「Media Development and Media for Development」で、アジア太平洋地域の発展のためにＡＢＵを核とした放送メディアの果たすべき役割を議論した。総会に先立ち２日間開催された番組委員会では、「東日本大震災の報道、放送から学ぶフォーラム」が行われ、インドネシアのラジオ局の番組局長や韓国ＫＢＳの番組ディレクター、ＮＨＫワールドの編成部長らがパネリストとして災害放送、震災報道について発言した。ＮＨＫを初めとする震災報道のニュース素材がＡＢＵをセンターとして、各国の報道機関に遅滞なく広く配信されたことが高い評価を受けた。その一方で、放送インフラの整備については、アナログのままの国や地域も多く、ラジオが主流のところもあり、途上国の防災体制そのものや放送設備の立ち遅れなどが大きな問題として指摘された。

総会に参加した谷村専務理事は、当基金がＡＢＵ・番組委員会のプロジェクトに助成していることをふまえ、ＡＢＵメンバーの放送のハード系の整備、ＡＢＵを核としたニュース・番組交換の更なる充実、アジア太平洋地域の人々が抱える共通問題や地球規模の問題について番組の共同制作に積極的に取り組むことなどを提言した。

（４）制作者フォーラムの開催等

ア　制作者フォーラム

ＮＨＫ、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的として、平成２３年度は２地区で現地実行委員会と共催開催した。

内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画による講演会等が中心と

なった。

〇北日本制作者フォーラム in さっぽろ(北海道･東北地区)

＜北海道、東北の民放とＮＨＫ、計４０局＞

日　時　平成２３年１１月１１日（金）

場　所　ＳＴＶホール（札幌テレビ放送内）／札幌市

参加者　約６０名

〇九州放送映像祭＆制作者フォーラム（九州･沖縄地区）

＜九州、沖縄の民放とＮＨＫ、計３５局＞

日　時　平成２３年１１月２６日（土）

場　所　ＮＨＫ福岡放送局 ハイビジョンホール／福岡市

参加者　約５０名

イ　全国制作者フォーラム２０１２（東京）

制作者フォーラムが全国４地区で開催できなかったため中止とした。

（５）定期刊行物の刊行等

“放送文化基金賞”と“助成”の受賞者、助成対象者一覧に加え、受賞者インタビューや研究内容の紹介などを中心とした広報誌「放送文化基金報（ＨＢＦ）」No.７５、No.７６を２回（23 年９月と 24 年４月）刊行した。

（６）ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。また、公益法人移行に伴い４月１日より、最新のニュースを判りやすく掲載したヘッドラインニュース設けた。

＜日本語版内容＞

助成・援助の決定・および成果の報告／申込書及び報告書類フォーマットファイル／助成・援助対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧・申込書フォーマットファイル・実施細則／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／広報印刷物の紹介／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿　等

アクセス件数　46,208 件　(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

＜英語版内容＞

助成・援助の募集案内、助成したプロジェクトの活動や成果の紹介、日本賞・ＡＢＵ賞への参加について　等

アクセス件数　5,024 件（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

（７）個人情報の保護

当基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

（８）資産運用検討委員会

ア　目　的

当基金では、「資産運用方針」に基づき資産運用を進めているが、特に債券市場の分析・機関投資家の動向等について幅広く情報の収集に努め、資産運用の専門性をより一層向上させるため、部外の専門家を含めた諮問的機関として「資産運用検討委員会」を年間２回開催した。

イ　委　員

青木　昭憲　（大和住銀投信投資顧問㈱法人部長）
柿沼　点　（大和住銀投信投資顧問㈱ﾁｰﾌｴｺﾉﾐｽﾄ）
奥原　健夫　（大和住銀投信投資顧問㈱ﾌｧﾝﾄﾞﾒﾈｰｼﾞｬｰ）
松原　克美　（放送文化基金会計顧問･公認会計士）
箕浦　康子　（放送文化基金監事）
石田　研一　（放送文化基金監事・ＮＨＫ理事）
（幹　事）
谷村　啓　（放送文化基金専務理事）

ウ　意見交換の主なテーマ

・ 欧州債務問題等の影響を受け、日米欧の経済政策や金利や為替等の見通し
・ 債券市場の動向等を踏まえた資産運用ならびに保有債券の分析等

Ⅱ　処務の概要

（１）　役員、評議員等に関する事項

ア　役員・監事の選任等

（ア）理事・監事については全員が平成２３年３月３１日で任期満了となったが、公益財団法人への移行にともない６月の定時評議員会まで現体制を維持した。６月の定時評議員会で塩野宏氏、末松安晴氏、櫻井孝頴氏、谷村啓氏が理事に、箕浦康子氏、石田研一氏が監事に就任し、河竹登志夫理事長および高野悦子理事が退任した。新たに五代利矢子

氏、藤井宏昭氏が理事に選任され、新体制となった理事会で塩野宏理事を理事長に、谷村啓理事を専務理事に選定した。
（任期　いずれも平成２３年６月１０日～平成２５年６月の定時評議員会まで）

イ　評議員の選任等

（ア）　第１回評議員会（平成２３年６月１０日）において、次のとおり新たに選任した。

松本　正之　氏　（日本放送協会会長）
（任期　平成２３年６月１０日～平成２７年６月の定時評議員会まで）
五代　利矢子 氏､藤井　宏昭 氏は平成２３年６月１０日をもって退任。
なお、児玉　清氏は平成２３年５月１６日、逝去された。

（イ）　第２回評議員会（平成２３年１２月１０日）において、次のとおり新たに選任した。

加藤　剛　氏　（俳優）
向井　千秋　氏　（宇宙航空研究開発機構 特任参与、宇宙飛行士）
（任期　いずれも平成２３年１２月９日～平成２７年６月の定時評議員会まで）

ウ　審査委員の委嘱

（ア）　第３回理事会（平成２３年７月８日）において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成審査委員会委員（人文社会・文化）
新山　賢治　氏　（日本放送協会理事）
（任期　平成２３年７月８日から平成２４年３月３１日まで）
黒木　隆男委員は、平成２３年７月７日退任
放送文化基金賞審査委員会委員
木田　幸紀　氏　（日本放送協会理事）
（任期　平成２３年７月８日から平成２４年３月３１日まで）
日向 英美委員は、平成２３年７月７日退任

（イ）　第４回理事会（平成２３年１０月７日）において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成審査委員会委員（人文社会・文化）
安藤　裕康　氏　（国際交流基金理事長）

（任期　平成２３年１０月７日から平成２４年３月３１日まで）
藤井　宏昭委員は平成２３年１０月６日退任

（ウ）　第６回理事会（平成２４年２月１日）において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成審査委員会

＜技術開発＞

審査委員長	羽鳥　光俊	氏	（東京大学名誉教授）
審査委員	今井　秀樹	氏	（中央大学教授）
	白井　克彦	氏	（放送大学学園理事長）
	永井　研二	氏	（日本放送協会専務理事・技師長）

＜人文社会・文化＞

審査委員長	濱田　純一	氏	（東京大学総長）
審査委員	安藤　裕康	氏	（国際交流基金理事長）
	黒崎　政男	氏	（東京女子大学教授）
	佐藤　卓己	氏	（京都大学大学院准教授）
	白石　さや	氏	（東京大学大学院教授）
	新山　賢治	氏	（日本放送協会理事）

放送文化基金賞審査委員会委員

審査委員長	小田島雄志	氏	（東京大学名誉教授）	
審査委員	河合祥一郎	氏	（東京大学大学院教授）	新任
	木田　幸紀	氏	（日本放送協会理事）	
	金田一秀穂	氏	（杏林大学教授）	
	玉川　寿夫	氏	（日本民間放送連盟常勤顧問）	
	長谷川豊明	氏	（元日本放送協会専務理事・技師長）	
	堀川とんこう	氏	（演出家）	新任
	吉田　喜重	氏	（映画監督）	

（任期　いずれも平成２４年４月１日から平成２６年３月３１日まで）

（２）理事会および評議員会に関する事項

ア　理事会

開催年月日	主　な　議　案
平成 23．5．26 （第１回）	・ 平成２２年度事業報告書および決算報告について ・ 第３７回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 東日本大震災関連の委託研究について
平成 23．6．10 （第２回）	・ 理事長及び専務理事の選定について
平成 23．7．8 （第３回）	・ 審査委員の委嘱について
平成 23．10.7 （第４回）	・ 第２回評議員会の開催について ・ 審査委員の委嘱について ・ 事業関係規程類の整備について
平成 23.12.9 （第５回）	・ 評議員候補者の推薦について ・ 平成２４年度予算編成の考え方について ・ 第３８回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 制作者フォーラムの実施結果について ・ 日本賞、ＡＢＵ賞の結果について
平成 24．2．1 （第６回）	・ 第３回評議委員会の開催について ・ 平成２３年度助成の実施について ・ 平成２４年度事業計画および収支予算の編成について ・ 平成２４年度資産運用計画について

イ　評議員会

開催年月日	主　な　議　事
平成 23．6．10 （第１回）	・ 平成２２年度事業報告書および決算について ・ 基本財産の議決について ・ 第３７回放送文化基金賞選考結果について ・ 評議員の選任について ・ 役員の選任について
平成 23．12.9 （第２回）	・ 評議員の選任について ・ 平成２３年度収支見通し及び平成２４年度予算編成方針について
平成 24.3.9 （第３回）	・ 平成２４年度事業計画と収支予算について ・ 平成２３年度助成の実施について